

学生委員会主催行事

「デートDV」講座

安心・安全週間の各種イベントについて

毎年ですが、デートDVに関する講演会は真栄キャンパスの出席者は少なく、診療放射線学科は7人、看護学科は16人でした。一方、恵み野キャンパスのリハビリテーション学科は68人が参加してくれました。「高校の時のデートDVの話とはまるで違った」「ジェンダーへの理解や法律の知識が得られた」などの感想が寄せられました。被害を受けている学生(男子)が講演の後相談にも来ました。以下は、欠席した学生たちへの講演を担当した林美枝子先生からのメッセージです。

「性的に親密な両者間で起こるデートDVは人権問題であるばかりではなく、その後の人生における健康阻害要因でもあります。被害者にも加害者にもならないためには、まずは知ることが肝心です。この種の社会問題に対する情報は驚くほど更新されています。

最新の情報を常に手に入れ、将来の医療関係者として、情報貧乏にならないようにしてほしいと思います。

15年ほど前、アメリカの大学におけるデートDVの対応を視察した時、「加害者では？」というパンフレットが学内のいたるところに置いてありました。

欠席した学生は以下のチェックリストを実施してみてください。大切な人を傷つけないために。

(看護学科 林美枝子)

デートDV加害者になる可能性度チェック

そう思う項目を☑してください。

- 愛し合っているなら2人は一心同体である
- いつも相手のいる場所や行動が気になる
- 自分以外の異性と会話をしてほしくない
- 気に入らないと相手を無視することがある
- セクシャルな服装やバイトをさせたくない
- 相手の交友関係が気になる
- 腹が立つと怒りを抑えられなくなる

1つでも☑となったら、要注意です。

年金セミナー

出席者数 真栄キャンパス 看護学科・診療放射線学科合同2年 18人 恵み野キャンパス リハビリテーション学科2年 38人

毎年、新札幌年金事務所の関係者が両キャンパスを訪れ、年金の説明をしてくれます。

年金制度を知らないまま大学生になり、知らないまま社会人になる人がほとんどですが、この機会に制度の内容を理解しておくことは長寿社会で暮らす私たちにとっては大変大切なことではないでしょうか。特に本学の学生は半数近くが一人暮らしをしているため、初めての年金の納入に関する書類は実家に送られてしまいます。保護者様は事の重大さを理解していますが、それらを手にする皆様はこの問題を非常に軽く考える傾向が強いです。

興味がないという学生の理由は「どうせ自分たちがもらえるころには制度は破綻しているかもしれないから」というのがほとんどですが、年金制度は国の制度なので、年金が破綻する時は日本という国も破綻することになります。民間の保険制度より格段に安全なのです。

何より保険料を納めるということは、それと同じ額の公的資金(私たちが払った税金のこと)が投入されたことになり、逆を考えると納めないということは払ってもらえるはずの公的資金を、その分捨てたということになるのです。

もし今掛け金を払うことができないなら、せめてはがき一枚の手間で済みますから、学生納付特例制度の手続きだけでもちゃんとしておきましょう。



可決した今年の予算表

科目	予算
学内団体活動費	300,000
新入生歓迎会	500,000
大学祭費	2,500,000
体育大会費	500,000
卒業生記念品	189,000
卒業記念パーティー補助	378,000
学科行事費	200,000
会議費	100,000
事務費	30,000
予備費	1,065,882
合計	5,762,882

ぜひ学友会会員として学内社会活動への参加をお願いします。

毎年学生が増え、予算規模も大きくなっています。会計はリハビリテーション学科の伊澤さんと看護学科の川股さんが担います。皆さんの3000円が生きるかどうかは学生が学友会に参加するかどうかにかかっています。ぜひ学友会行事への参加と協力をお願いします。

学友会第5回定例総会開催

日時 平成30年4月21日(土) 11時00分～11時30分 場所:日本医療大学 つしま記念ホール

大坪会長から各学科の副会長が指名され、各学科学年のクラス代表の一人が参加する新本部会が立ち上がりました。ただ、クラス代表の参加率が悪く、本人にその自覚が欠けているため協力が得られないことも多く、本部会員の責任が重くなる傾向にあります。

皆で母校の大切な学生自治組織である学友会を守り、盛り上げていきましょう。今年は学友会創設5周年の節目の年でもあり、次の5年間に向けた再スタートの年でもあります。



あずましい

北海道の方言で、居心地が良いという意味

お願い

本誌紙面に掲載されたすべての情報は転載・コピー等を禁止いたします。掲載されている写真等の使用に関しては、本学における「個人情報取り扱い」基本方針に基づき本人の同意を得ております。

あずまし

日本医療大学キャンパス通信

学生委員会が発行する
日本医療大学の「今」を伝えるニュースレター

no.19
2018.7.1 発行

no.19号

- ・平成30年度「日本医療大学年度別学生顕彰」顕彰状授与式
- ・学友会第5回定例総会開催
- ・第5回全学年合同新入生歓迎会
- ・看護学科ニュース
- ・リハビリテーション学科ニュース
- ・診療放射線学科ニュース
- ・科学の祭典in北海道に出席
- ・社会貢献活動の紹介「カタリバ」への参加
- ・安心・安全週間の各種イベントについて
- ・年金セミナー

平成30年度「日本医療大学年度別学生顕彰」顕彰状授与式

日時 平成30年4月21日(土) 10時00分～10時30分 場所 日本医療大学 つしま記念ホール

学友会主催の新入生歓迎会に先立ち、成績優秀者に送られる学生顕彰状の授与式が執り行われました。各学科の優秀な成績を収めた40名が受賞し、島本総長より賞状と副賞が授与されました。私は当日の司会を担当し各受賞者の顔を間近に見まして、緊張の中に誇らしい表情を感じることができました。努力と結果が結びつく感動を学生、教職員と共に、今年度さらに多くの学生たちが勉強に前向きになることを期待できる授与式でした。

リハビリテーション学科 大堀具視



第5回全学合同新入生歓迎会

参加人数は看護が116人、リハビリテーションが92人、診療放射線学科が58人でした。

全学合同歓迎会は他学科との交流を目的とし、懇談の場やゲーム等が盛り込まれていました。

後日、1位のビンゴの景品については、今後検討が必要という意見が学生委員会から出ました。

参加を促すための工夫ではありましたが、こうした意見を真摯に受け止め、一年にわたる重責を学友会本部会員が無事果たすことを願います。



リハビリテーション学科 ニュース

リハビリテーション学科の新生歓迎会

4月7日(土)にリハビリテーション学科の新生歓迎会が行われました。学友会の2年生が中心となって準備をし、新生から4年生までと教員のほとんどが参加するという、大きな会となりました。1年生は入学式が終わって、まだ大学での講義も始まっておらず、緊張した面持ちでしたが、上級生たちと話すうちに次第に和やかな雰囲気となっていました。サークル紹介もあり、これからの大学生活のイメージが出来たのではないかと思います。



診療放射線学科 ニュース

診療放射線学科の新生歓迎会

診療放射線学科では、2018年4月6日に新生歓迎会を開催しました。1期生及び2期生の有志が準備を進め、第3期生となる新たな仲間の誕生を盛大にお祝いし、歓迎しました。6日が今年度の初登校日ということもあり、中には不安そうな表情をのぞかせる新生もいましたが、気さくに声をかけ、場を和ませている先輩たちの姿には、どこか頼もしさも感じられました。

思い返せば2年前、1期生52名でスタートした診療放射線学科ですが、今年度の新生(3期生)を含めると総勢157名となりました。

将来のこと、国家試験のこと、臨床実習のこと、資格試験のことなど、多くの不安や困難が待ち受けていますが、学科全体で助け合いながら、目標に向けて進んでいきましょう!



看護学科 ニュース

「認知症サポーター」・人間の杖になろう

認知症研究所の主催で5月11日、看護学科1年生向けに認知症サポーター養成講座が開催され、新たに本学の看護学科に93名のサポーターが誕生しました。認知症サポーター制度は、日本発祥のシステムで世界の10の国や地域で導入されていて、5つの国でその実施に向けた準備が進行しています。

キャラバンメイトの資格を持つ人によって認知症サポーター養成講座が開催され、これを受けることでオレンジのリングが付与されます。

始まったのは2005年ですが、100万人の養成がめざされていましたが、目標は800万人となり、新たに2020年までの目標値が1200万人に設定なおされました。東京オリンピックが行われる年には日本人の10人に1人が、認知症の人を理解する知識と支援の覚悟を持ってサポーターとなっている国になるのです。報道によると2018年6月現在とうとう1000万人を超えたそうです。

日本発のシステムがこれほど多くの国に評価されることは嬉しい限りですが、基本的にこのシステムが目指すのは認知症でも安心して暮らせる地域社会です。そのために患者の失われた機能の一部を補完できる「人間の杖」に皆がなりましようと言うものです。



認知症サポーターキャラバン



～実習指導者会議～

4月14日(土)に恵み野キャンパスにおいて 臨床実習指導者会議が行われました。

これは今年度4年生の臨床実習Ⅲ(8週間×2か所)のためのもので、実習を始めるにあたって、学校と指導者間で実習内容、到達目標などを確認し、指導者は学生と面談を行います。

学生にとっては指導者の先生と直接会って、病院の概要、実習にあたって勉強しておくことなどを確認する場となります。普段着慣れていないスーツを着ての面談で緊張して臨んでいました。この会議が終わるといよいよ実習まで日にちが無く、事前の準備にも力が入ってきます。

～科学の祭典 in 北海道に出展～

札幌ドームで2月17、18日の両日に渡って開催された「青少年のための科学の祭典 in 北海道」で、本学診療放射線学科の教員と学生が出展し、子供たちに磁気と電気を使った実験を体験してもらいました。

子供たちは、目に見えない力によって引き起こされる不思議な現象に興味津々でした。祭典には60近い団体が出展し、NPO法人ガリレオ工房理事長の滝川洋二先生によるサイエンスショーも行われ、多くの家族連れで賑わっていました。本学では、診療放射線学科で物理学を教えている桑原修先生、1年生の岡部映里奈さんと齋藤由於さんが事前に4つの実験①金属の違いによる磁石のくっつき方の違い②コイルの中を磁石付きの電池が自動的に走る「単電」③ガウス加速器による玉突き④発生するねじれ磁場の中での磁石落しを準備しました。



社会貢献活動の紹介 「カタリバ」への参加

「カタリバ」とは、大学生が中高生と語り合う出前授業のことで、2010年からNPO法人いきたすが全国の学校で実施してきました。札幌でも6月13日、市内の大学生45人が白樺学園高校を訪れ、1年生116人と語り合いました。翌日の北海道新聞に大きく取り上げられたこの活動ですが、本学の看護学科3年梅本暁菜さんも参加していました。生徒数人と座談会をしたほか、それぞれの進学に関する経験談を披露したそうです。



45人でハート型?の円陣を組む!!



皆さん、梅本です。「カタリバ」のボランティアで他大学の学生たちと高校を訪れました。キャンパスから外に出て、いろいろなことを経験しましょう。すべてが、理想の看護師となるための資源になると思います。(看護学科3年 梅本暁菜)